



# ショートコメント

★★★

**Data** 2023-5

監督・脚本：ライナル・サル  
ネット

原作：アンドルス・キヴィラ  
フク『レヘパップ・エ  
フク・ノベンパー』

出演：レア・レスト／ヨルゲ  
ン・リーク／イエッ  
テ・ローナ・エルマニ  
ス

## ノベンパー

2017年ノポーランド・オランダ・エストニア映画  
配給：クレプスキュール フィルム/115分

2023 (令和5) 年1月9日鑑賞

シネ・リープル梅田

### みどころ

「ノベンパー」は11月のことだが、エストニアの寒村では11月に“死者の日”を迎えるらしい。そこでは若い男女の“純愛”が契られるそうだが、そんな東欧ダーク・ラブストーリーの理解は難しい。

東欧の国エストニアに見る“世にも不思議な物語”は、なんとも奇怪な“使い魔クラット”の登場と共に始まるが、あまりにも違和感が強い。美しい映像美にはうっとりだが、ストーリーがこれでは、私を含むほとんどの日本人はお手上げ・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆本作のチラシには、次のとおり書かれている。すなわち、

11月に“死者の日”を迎えるエストニアの寒村——そこでは世にも不可思議な「純愛」が契られようとしていた。目も眩む美しいモノクロームの映像美でその甘美な悪夢を描いた、東欧ダーク・ラブストーリー。

また、本作について、次のとおり紹介されている。すなわち、

原作は、エストニアの作家アンドルス・キヴィラフクのカルト的ベストセラー。東欧の映像詩人ライナル・サルネット監督は“全てのものには霊が宿る”というアニミズムの思想をもとに、異教の民話とヨーロッパのキリスト教神話を組み合わせ映像化。その獨創性に溢れた映像美が高く評価され、観客を魅了。2018年アカデミー賞外国語映画賞のエストニア代表に見事選出された。日本では、同年に開催された第10回京都ヒストリカ国際映画祭「ヒストリカワールド」部門で上映され、高い評価を得ている。

こんな紹介を読めば、こりゃ必見！

◆さらに、チラシやパンフレットによると、本作のストーリーは次のとおりだ。

月の雫の霜が降り始める雪待月の11月、「死者の日」を迎えるエストニアの寒村。戻ってきた死者は家族を訪ね、一緒に食事をしサウナに入る。精霊、人狼、疫病神が徘徊する

中、貧しい村人たちは“使い魔クラッド”を使役させ隣人から物を盗みながら、極寒の暗い冬をどう乗り切るか思い思いの行動をとる。農夫の娘リーナは村の青年ハンスに想いを寄せているが、ハンスは領主のドイツ人男爵の娘に恋い焦がれる余り、森の中の十字路で悪魔と契約を結んでしまうのだった――。

◆最初にスクリーン上に登場するのは、狼の姿。その動きを見ているだけで、本作は日本では到底見ることのできない、エストニアの“世にも不思議な物語”だということがわかるし、期待感も膨らんでくる。しかし、続いて登場してくる「物置の道具で作られた、自立可能な三脚型の歩行機らしき“使い魔クラッド”なるものが登場し、奇妙かつ恐ろしい動きで牛を捕まえたうえ、今ドキのドローンのように、上空を飛んで牛を運んでいくシーンを見ていると、アレレ、アレレ、こりゃ一体ナニ・・・？

◆本作のテーマが“東欧ダーク・ラブストーリー”であることは、美しい農夫の一人娘リーナ（レア・レスト）と青年ハンス（ヨルゲン・リーク）の動きを見ればすぐにわかる。しかし、ハンスの思い人はリーナではなく、領主であるドイツ人男爵の美しい娘（イエツテ・ローナ・エルマニス）であったため、ややこしい関係に？しかし、東欧ダーク・ラブストーリーは、それが「森の中の十字路で悪魔と契約を結んでしまう」というストーリーになっていくから、ややこしい。

撮影は美しいし、パンフレットを読めば、それなりに「なるほど」とわかるものの、スクリーンを見ているだけではその理解はとてとても。そのため、はっきり言って、本作の世界観はもとより、ストーリーもその良さも日本人には容易に理解できないだろう。

◆日本語でも中国語でも形容詞の使い方は難しい。そのため、どんな形容詞をどのように使うか、またいかに言葉を操り、繋ぎ合わせて物事を形容する文章を作り出すかは、執筆者の力量の見せどころになる。しかして、本作のチラシは、本作を次のとおり“形容”している。すなわち、

真夜中の十字路での悪魔的な出会い。満月の狼への変身と愛の特効薬。ペストを村から追い出すための奇策。白装束の死者の列。森の暗い松の間から漏れる月光……。フォークロア、ゴシック、ロマンス、ブラックユーモア、そして愛と哀愁をシームレスに縫い合わせ、凍てつく朝のように冷たくも美しい、ただひたすらに詩情溢れる少女と水と風の美しい物語は、深いため息とともにあなたに魔法をかけることでしょ。

しかし、こんな形容だけで、本作の映像を十分想像できないことは明白だ。本作の良し悪しはあなた自身の目でしっかりと。もっとも、私は本作の良さを十分確認できなかったが、さてあなたは？

2023（令和5）年1月11日記